

1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 7月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1070101199
法人名	医療法人社団清宮医院
事業所名	グループホーム山王の家
所在地	前橋市山王町133番地 (電話) 027-266-8611

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年7月10日

【情報提供票より】(平成20年 4月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.91人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:300円 其他:52円
敷金	有 (100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400 円	昼食 640 円
	夕食	640 円	おやつ 100 円

(4)利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 92.4歳	最低	87歳	最高	99歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人清樹会 山王医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山王の家は、老人保健施設に併設されている。併設施設のリハビリ室でリハビリを行ったり、合同行事を一緒に楽しむことができる。事業主体が医療法人なので、往診の他に24時間看護師や主治医に連絡が取れる医療連携体制となっている。入居者の平均年齢は92.4歳と高いが、車椅子の入居者は2人で他の入居者は歩行されている。家庭的な環境の中で、残存能力や生活歴を活かした支援をしているので、入居者は張り合いや喜びのある日々を過ごされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を、改善計画シートで点検し、職員全員で改善策を考え4ヶ月後に評価している。改善課題の理念については、地域密着型サービスであることを踏まえて、開設者と相談して新しい理念を作っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について職員全員に用紙を配布し、職員の意見を聞いて、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月毎に開催され、スナップ写真を見てもらいながら行事報告をしたり、運営に関する意見やその時々話題になっている出来事について話しあっている。地域の防災協力員と顔あわせを行った報告や会議で防災頭巾の作成などが提案され、その後取り組んだこと等が報告されている。運営推進会議の議事録は、玄関に張り出されていて、運営推進会議で取り上げてほしい議題についての呼びかけも行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪は比較的多く、少ない人でも月に1度は来訪している。職員は、家族の意見、苦情等を引き出せるような対応を心がけている。家族への報告は、来訪時に口頭で話したり、年に4回発行するお便りで文書報告している。家族交流会は、入居者も含めて年に2回行われている
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近郊の小学校の運動会に招待され参加している。ホームでプルトップやペットボトルの蓋を集めて小学校に渡し、車椅子をいただくなど交流を行っている。自治会や老人会等の行事への参加は、入居者が高齢(平均年齢92.4歳)のため参加していない。ホームで飼い犬がいるので、犬を見に寄って下さる方との交流や散歩時に挨拶や話しかけを積極的に行っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境の中で残された能力を最大限に活かし、自分らしく生活できることを事業所の理念としている。昨年、理念の見直しを行い、地域との連携の中で営むことを新たに加えている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室のタイムカードのある場所に理念を掲げ、職員が毎日確認できるようにしている。月1回の会議や日常のケアに悩んだ時などに、理念に添った実践をしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近郊の小学校の運動会に誘いを受け参加している。自治会、老人会等への参加は、平均年齢が92.4歳という高齢のために参加していない。近隣の方が散歩の際に事業所の犬を見に立ち寄りたり、ボランティアで学生や入居者の家族が見えたり、職員の子供が来所したりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を3つの改善項目にまとめ、改善目標、改善に向けた計画内容、期間、評価等を行い、具体的な改善に取り組んでいる。自己評価も全員で取り組み、管理者がまとめている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、行事報告や今後の計画などを伝え、意見交換を行っている。昨年の秋に、防災頭巾を作ったらどうかというアイデアが出され、意見を活かして実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、わからないことがあれば相談したり、入居の相談等を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりや健康状態についての家族への報告は、面会時に口頭でお伝えしたり、「山王の家便り」を年に4回発行して文書報告等をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に気軽に話していただけるような雰囲気づくりに心がけている。また、入居者を含めた家族交流会を年に2回開催しており、楽しい交流会になるように家族と話しあっている。	○	家族等が意見、不満、苦情を外部者へ表せるように外部の苦情相談窓口を重要事項説明書等に追記される事を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった時には、その都度入居者家族に報告している。また、新しい職員は、「山王の家便り」で紹介し、本人から自己紹介させている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回ある母体組織の救急法や感染などの全体研修に参加したり、連絡協議会の研修に参加している。参加者は復命書を提出し、他の職員にも報告している。採用時は母体組織を含め全体を理解してもらうため、3日間ボランティアで体験研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年1月にはグループホーム大会に参加している。また、同業者との交流を通じた向上を考え、他ホームへの訪問を計画していたが、都合によりまだ実現できていない。8月には連絡協議会の新任者研修会に、参加する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の老人保健施設に入所している人やデイケアに通っている人等の入居が多く、馴染みとなってからの入居となっている。デイケアの利用者には、日中2時間程度2日間来ていただく等、場の雰囲気に馴染んでいただくからのサービス利用としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が防災頭巾を作成する時、裁縫が得意の入居者に作り方のアドバイスをいただいている。入居者と一緒に過ごしながらか、「おばあちゃんの智恵袋」と感心することもあり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握は、テレビが好きとか音楽が好き等入居者からお聞きしたり、表情の変化や職員間の情報交換で把握している。音楽の好きな入居者にエレクオンをひいてもらったり、本が好きな入居者に本をお貸しするなどの支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3回分の介護サービス計画が書かれており、事業所の評価、再評価も記入されている。介護サービス計画書に、家族の承認欄のスペースはなく、別紙にてサインをもらっている。	○	介護サービス計画書の評価、再評価が行われているので、それを活かして3ヶ月毎に再評価された新しいニーズを入れた介護サービス計画書を新たに作成されるよう期待する。サービス計画書に、家族の確認印欄を設けていただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合には、申し送りやケース会議等で職員に周知され現状に即したケアを行っているが、介護サービス計画書の見直しがされていない。	○	介護サービス計画書と日々の実践が一体化するような工夫を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	老人保健施設のリハビリ室に昼食後、毎日行って平行棒や滑車を使ってのリハビリをしている。さわやか健診の時期には、事業主体である医院にドライブをしながら通院支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医の受診をしている。入居者全員が、事業主体である医院の往診を2週間に1回受けている。また、週に1回皮膚科と歯科の医師が、併設の施設に往診に来るので、必要に応じて受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算をとり、24時間看護師や主治医に連絡がとれる体制となっている。重度化した場合に係る対応の指針が作成されており、看取りについては医療機関を紹介していく方針である。現在は、重度化や終末期にはスムーズに入院等ができるように支援している。入居者や家族には説明がされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が居室に入る時にはノックをしたり、入浴も1人ずつ入っていただき、脱衣室で他の入居者が待っていることがないように丁寧に対応している。記録等の個人情報は、事務室に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	催しものがある時には、入居者に声かけをおこなうが、自分の部屋で過ごすのが好きな入居者には部屋で過ごしていただく等、個々の希望やペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好き嫌いを把握し、カレーが嫌いな人にはシチューを用意する等工夫している。じゃがいもやふきの皮むきなどを、時々手伝ってもらっている。テーブルは食べるのが早い、遅いの2組に分けて、ペースにあわせて食べてもらうように支援し、職員も一緒にテーブルにつき食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日午後2時から1人20分～30分とゆっくり時間をとって入ってもらっている。風呂に入る順番は、入居者の希望に対応している。入浴を拒否される時は、無理のない声かけで誘導したり、翌日に入っていたいでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は日々の生活のなかで仕事を希望しているので、洗濯物たたみ、雑巾や台ふきんを縫っていただいている。また、月に1回習字を行い、季節の言葉を書いてロビーに掲示している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者から希望が表出されるので、月に1回は外出、ドライブ、外食等に出かけている。また、近くを散歩している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は共に鍵をかけることの弊害を理解しており、居室や玄関は施錠していない。玄関にはチャイムの設置により、出入者の把握をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	廊下を隔てて老人保健施設がある。避難訓練は年に2回合同で行っており、ホーム独自では実施していない。地域の防災協力員7名の名前は玄関に掲示され、第1回目の顔合わせが行われている。災害時に備えて必要な備品は併設の施設に用意されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間献立表は併設施設で作成され、ホームで食材を注文し食事作りをしている。食事摂取量は食後に確認し、主食と副食に分けて4段階にチェックしている。水分量はチェックしていない。夜間は希望があれば、枕元にペットボトルのお茶をおいて水分の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は台所と続いているので、台所からの食事の臭いがして、食欲をそそられる。居間の大きな窓からは田園風景もよく見えるので、四季を感じるができる。また、ホームの犬の動きもよく見えて、入居者の癒しになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとクローゼットは備え付けられており、背の低い入居者には低床ベットが置かれている。それ以外はそれぞれ自分の好きな物を置かれ、居心地よく過ごせるような工夫がされている。入口には自分の名前が書かれており、暖簾がかけられている。		